

3.5 植物

1) 調査項目

工事・存在（造成等の工事及び造成地の存在）による植物への影響については、緑化による効果が現れるまでに時間がかかること、植物の生育状況は年変動があること、移植植物の維持管理が必要であることなど、保全措置の効果や予測結果の不確実性が残るため、以下の項目について事後調査を実施し環境影響の状況を確認した。

- ・生育種及び植物相の特徴
- ・注目すべき種等の分布状況及び生育状況

2) 調査方法

調査方法を表 3.5-1 に示す。調査対象は維管束植物とするが、それ以外にも重要な種等が確認された場合は適宜記録した。

確認された種のうち、表 3.5-2 に示す選定根拠に該当する種類を重要な種とし、種名及び確認地点を記録した。なお、宮城県レッドリストが 2022 年 3 月に改訂されており、扱いは改訂版に従うが、改訂前に確認された対象種は引き続き確認する。

表 3.5-1 調査方法（植物）

項目	内容
植物相	調査範囲を踏査し、確認された植物種を記録した。重要種は、位置及び確認状況（確認数、生育状況など）を記録した。

表 3.5-2 注目すべき種等の選定根拠

区分	選定根拠		カテゴリー	
	略	名称	記号	区分
重要な種	文化財	「文化財保護法」（1950 年 5 月 30 日法律第 214 号）	特天	特別天然記念物指定種
			天	天然記念物指定種
	種保存	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（1992 年 6 月 5 日法律第 75 号）	国内	国内希少野生動植物種
			国際	国際希少野生動植物種
			緊急	緊急指定種
	国 RL	「環境省レッドリスト 2020」（2020 年 3 月 環境省）	EX	絶滅
			EW	野生絶滅
			CR	絶滅危惧 I A 類
			EN	絶滅危惧 I B 類
			VU	絶滅危惧 II 類
			NT	準絶滅危惧
	県 RL	「宮城県の希少な野生動植物-宮城県レッドリスト 2021 年版-」（2022 年 3 月 宮城県）	DD	情報不足
			EX	絶滅
			EW	野生絶滅
			CR+EN	絶滅危惧 I 類
			VU	絶滅危惧 II 類
NT			準絶滅危惧	
DD			情報不足	
LP			絶滅のおそれのある地域個体群	
要	要注目種			

3) 調査地域・地点

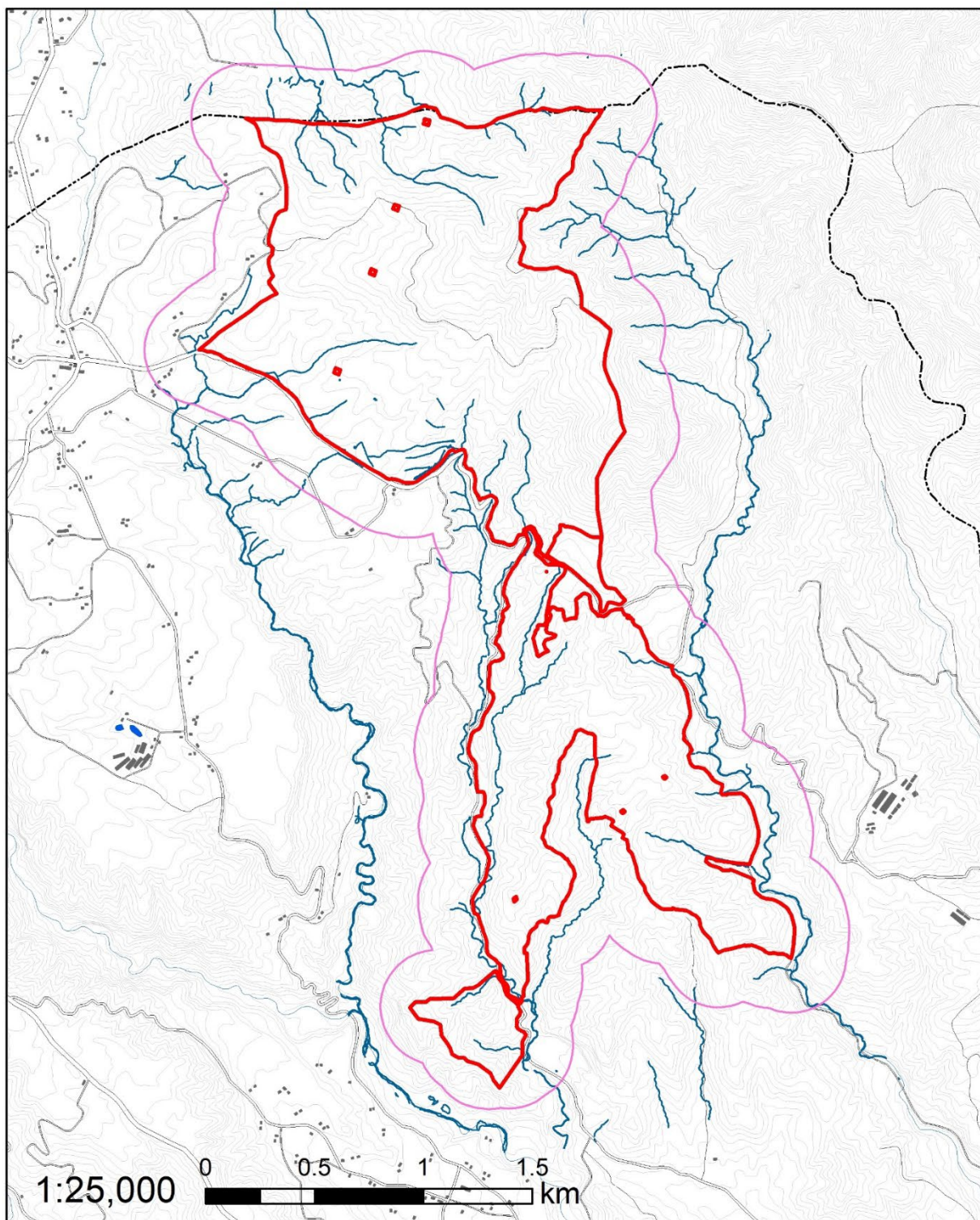
調査地域は、計画地の周辺 250m の範囲とした。ただし、私有地等立ち入りができない場所及び施工中の区域は除外した。調査地域を図 3.5-1 に示す。

4) 調査期間・頻度

調査期間は表 3.5-3 に示すとおりである。

表 3.5-3 現地調査実施日（植物）

項目	調査年度	現地調査実施日
重要種確認	2019 年度	11 月 21～22 日
	2020 年度	4 月 24～27 日, 5 月 26～29 日
植物相	2021 年度	6 月 1～4 日
		8 月 4～7 日
		10 月 15～20 日
	2022 年度	5 月 2～4 日
		7 月 27～30 日
		11 月 5～10 日



凡例

- 事業実施区域 植物調査範囲(周辺250m)

図 3.5-1 植物調査範囲

5) 調査結果

(1) 植物相の状況

これまでの調査で確認された植物種数を表 3.5-4 に示す。なお、種別確認状況は資料編に示す。

施工前調査で 124 科 803 種類、2021 年度調査で 127 科 798 種類、2022 年度調査で 130 科 786 種類、合計 135 科 956 種類が確認された。

施工が進むにつれて事業実施区域での確認種数は少なくなっているが、非改変区域及び周辺区域で引き続き確認されている種も多く、調査区域全体の確認種数の大きな変化は見られない。

表 3.5-4 現地調査における確認種数

【全確認種数】

分類群	全体					
	科数		種数		周辺区域	
	科数	種数	科数	種数	科数	種数
蘚苔植物	1	1	0	0	1	1
維管束植物	16	66	16	55	15	65
シダ植物						
種 裸子植物	2	4	2	4	2	4
被 基部	2	4	2	4	2	3
子 被基部	4	8	4	8	4	8
植物 モクレン類						
植物 単子葉類	24	255	20	187	23	239
物 真正双子葉類						
基底群	7	42	7	35	7	41
バラ上類	41	262	39	236	39	247
キク上類	38	314	38	274	36	297
合計	135	956	128	803	129	905

【調査年度ごと】

分類群	施工前						2021 年度						2022 年度					
	科数		種数		周辺区域		科数		種数		周辺区域		科数		種数		周辺区域	
	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数
蘚苔植物	1	1	0	0	1	1	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0
維管束植物	14	56	14	51	14	53	14	54	7	17	14	54	16	60	11	26	15	58
シダ植物																		
種 裸子植物	2	4	2	4	2	4	2	4	2	4	2	4	6	4	2	3	2	4
被 基部	2	4	2	4	2	3	2	3	2	3	2	3	2	3	1	2	2	3
子 被基部	4	8	4	8	4	8	4	8	3	5	4	8	4	8	3	5	4	8
植物 モクレン類																		
植物 単子葉類	21	199	19	160	21	181	22	210	13	76	22	201	22	202	14	80	21	194
物 真正双子葉類																		
基底群	5	36	5	32	5	34	7	37	6	18	5	34	7	32	5	19	7	31
バラ上類	57	403	56	382	55	365	57	390	50	213	55	371	40	217	31	131	38	213
キク上類	18	92	18	87	18	86	18	91	17	46	18	88	37	260	34	158	35	250
合計	124	803	120	728	122	735	127	798	100	382	123	764	130	786	101	424	124	761

注1) 分類体系は「宮城県野生植物目録 2018 維管束植物」(2018年 1月20日発行, 宮城植物の会会長) に準じた。

注2) 施工前は、評価書作成時の2017年度の調査結果及び移植のための事前調査を実施した2019年度、2020の年度の調査結果である。

(2) 重要な種

確認された植物種のうち、重要な種に該当するものを表 3.5-5 に、確認状況を表 3.5-6 に、年度ごとの確認状況を図 3.5-2 に示す。

施工中調査において、事業実施区域内ではエビネ等の 16 種、周辺区域ではナツエビネ等の 31 種が確認された。

施工が進むにつれて事業実施区域内の重要な種の確認は減少しているが、改変範囲で確認された個体は移植を行っている。

表 3.5-5 重要な植物

科	種	文化財	種保存	国 RL	県 RL	施工前		施工中			
						区域内	周辺	2021 年度		2022 年度	
								区域内	周辺	区域内	周辺
ウキゴケ科	イチョウウキゴケ			NT	CR+EN		○		○		
メシダ科	ヒロハイヌワラビ				CR+EN				○		
マツブサ科	チョウセンゴミシ				CR+EN	○					
トチカガミ科	イトトリゲモ			NT	NT		○		○		
ヒルムシロ科	イトモ			NT	NT		○				
ラン科	エビネ			NT	VU	○	○	○	○	○	○
	キンセイラン			VU	CR+EN	□			○	○	○
	ナツエビネ			VU	CR+EN				○		○
	キンラン			VU	VU	○					
	ユウシュンラン			VU	NT	○					
	クマガイソウ			VU	CR+EN		○		○		○
	ハクウンラン				VU						○
	ジガバチソウ				NT	□		○			
	ノビネチドリ				VU						○
	ツレサギソウ				VU	○	○	○			
ヤマトキシソウ					CR+EN				○		
ヒトツボクロ					NT	□			○		
アヤメ科	アヤメ				NT	○	○	○	○	○	○
クサスギカズラ科	スズラン				VU		○		○		○
ガマ科	ミクリ			NT	NT				○		○
カヤツリグサ科	タテヤマスゲ				VU		○				
ケシ科	ヤマブキシソウ				NT	□	□		○		○
キンボウゲ科	センウズモドキ			VU	NT	○	○	○	○	○	○
	レンゲショウマ				NT			○	○	○	○
	トウゴクサバノオ				NT			○	○		
	シラネアオイ				NT	□	□	○	○	○	○
ボタン科	ヤマシャクヤク			NT	VU	○	○	○	○	○	○
バラ科	エチゴキジムシロ				要					○	
ヤナギ科	シライヤナギ				VU			○	○	○	○
ミソハギ科	ヒメビシ			VU	CR+EN		○		○		
ジンチョウゲ科	ナニワズ				CR+EN		○	○			
アブラナ科	ハタザオ				VU	□	□		○		○
ナデシコ科	ナンブワチガイソウ			VU	NT		○		○		
サクラソウ科	クリンソウ				VU	○	○		○		
リンドウ科	ムラサキセンブリ			NT	CR+EN	□		○	○	○	○
ナス科	ハダカホオズキ				NT	□	□		○		○
オオバコ科	クワガタソウ				NT		○		○	○	○
シソ科	ヤマジソ			NT	VU	○		○		○	
ハマウツボ科	ケヤマウツボ				要	○					
キキョウ科	キキョウ			VU	NT				○		○
キク科	ムラサキニガナ				NT				○		
	コウヤボウキ				CR+EN	○	○			○	
セリ科	ハナビゼリ				NT	○			○		○
29 科	44 種	0 種	0 種	17 種	43 種	22 種	22 種	12 種	28 種	11 種	22 種

注 1) 重要な種の選定根拠は表 3.5-2 に示す。

注 2) “□” は、アセス調査以降、施工前に確認されたことを示す。

注 3) 施工前は、評価書作成時の 2017 年度の調査結果及び移植のための事前調査を実施した 2019 年度、2020 の年度の調査結果である。

表 3.5-6 (1) 植物保全すべき種確認状況

種名	カテゴリー		施工前の確認状況	施工中の確認状況
	国 RL	県 RL		
イチョウウキゴケ	NT	CR+EN	調査区域 [] の 1 か所において多数が確認された。	2021 年度調査時に、施工前と同じ場所の 1 か所において多数が確認された。
ヒロハイヌワラビ		CR+EN	確認されていない。	2021 年度調査時に、 [] 周辺区域の 1 か所において 1 個体が確認された。
チョウセンゴミシ		CR+EN	調査区域 [] の 1 か所において 1 個体が確認された。	施工中調査では確認されていない。
イトトリゲモ	NT	NT	調査区域 [] の 1 か所において確認された。	2021 年度調査時に、施工前と同じ場所の 1 か所において多数が確認された。
イトモ	NT	NT	[] の 1 か所において多数が確認された。	施工中調査では確認されていない。
エビネ	NT	VU	調査区域 [] の 13 か所で、各地点において 1 個体～多数が確認された。	2021 年度調査時に、事業実施区域内の 6 か所で 1～5 個体、周辺区域では、25 か所で 1～18 個体が確認された。2022 年度調査では、事業実施区域内の 4 か所で 3～5 個体、周辺区域の 8 か所で 1～2 個体が確認された。 主な確認場所は、 [] であった。
キンセイラン	VU	CR+EN	事業実施区域内で確認された。	2021 年度調査時に、周辺区域の 21 か所で 1～多数個体、2022 年度調査時では、事業実施区域内の 2 か所でそれぞれ 1 個体、周辺区域 3 か所でそれぞれ 1 個体が確認されている。主な確認場所は、 [] であった。
ナツエビネ	VU	CR+EN	確認されていない。	2021 年度調査時に、区域周辺 1 か所で 1 個体、2022 年度調査時では、区域周辺 3 か所で 1 個体が確認された。 主な確認場所は [] であった。
キンラン	VU	VU	事業実施区域 [] の 3 か所で各地点において 1～3 個体が確認された。	施工中調査では確認されていない。
ユウシュンラン	VU	NT	事業実施区域 [] の 1 か所において、3 個体が確認された。	施工中調査では確認されていない。
クマガイソウ	VU	CR+EN	調査区域 [] の 5 か所で、各地点において多数が確認された。	2021 年度調査時に、施工前と同じ場所の 1 か所及び新規 2 か所において 1 個体・多数が確認された。2022 年度調査では、施工前と同じ場所の 1 か所で多数が確認された。
ハクウンラン		VU	確認されていない。	2022 年度調査時に、周辺区域 [] の 1 か所で 2 個体が確認された。
ジガバチソウ		NT	アセス調査以降、施工前に、事業実施区域内で確認された。	2021 年度調査時に、事業実施区域 [] の 1 か所で 1 個体が確認された。
ノビネチドリ		VU	確認されていない。	2022 年度調査時に、周辺区域 [] の 1 か所で 4 個体が確認された。
ツレサギソウ		VU	調査区域 [] の 3 か所で、各地点において 1～7 個体が確認された。	2021 年度調査時に、施工前と同じ場所の 1 か所において 2 個体が確認された。
ヤマトキソウ		CR+EN	確認されていない。	2022 年度調査時に、事業実施区域内の [] 1 か所で 1 個体が確認された。確認個体は枯死個体である。
ヒトツボクロ		NT	施工前は事業区域内及び周辺で確認された。評価書作成時の宮城県レッドリスト 2016 は未指定。	2021 年度調査時に、周辺区域 [] の 1 か所で 1 個体が確認された。

表 3.5-6 (2) 植物保全すべき種確認状況

種名	カテゴリー		施工前の確認状況	施工中の確認状況
	国 RL	県 RL		
アヤメ		NT	調査区域 [] の 13 か所で、各地点において 1 個体～多数が確認された。	2021 年度調査時に、事業実施区域内の 6 か所で 1～8 個体、周辺区域の 2 か所で 1 個体・5 個体が確認された。2022 年度調査では、事業実施区域内の 5 か所で 1～3 個体が確認された。 主な確認場所は、 [] であった。
スズラン		VU	調査区域 [] の 1 か所において、やや群生していた。	2021 年度及び 2022 年度調査時に、施工前と同じ場所の 1 か所において多数が確認された。
ミクリ	NT	NT	確認されていない。	2021 年度調査時に、周辺区域 [] の 1 か所で多数が確認された。2022 年度調査時は、2021 年度と同じ場所 1 か所で多数が確認された。
タテヤマスゲ		VU	施工前は事業区域周辺で確認された。評価書作成時の宮城県レッドリスト 2016 は未指定。	施工中調査では確認されていない。
ヤマブキソウ		NT	施工前は事業区域内及び周辺で確認された。評価書作成時の宮城県レッドリスト 2016 は未指定。	2021 年度調査時に、周辺区域 [] の 1 か所で多数が確認された。2022 年度では、2021 年度と同じ場所で多数が確認された。
センウズモドキ	VU	NT	樹林内に点在しており、6 か所、各地点において数株ずつ確認された。	2021 年度調査時に、事業実施区域内の 3 か所で 10～多数個体、周辺区域の 3 か所で 1～多数個体が確認された。2022 年度では、周辺区域の 1 か所で多数個体が確認された。 主な確認場所は、 [] であった。
レンゲショウマ		NT	確認されていない。	2021 年度調査時に、事業実施区域内の 8 か所で 1 個体～多数が確認された。2022 年度調査時は、事業実施区域内の 7 か所で 5 個体～多数、周辺区域の 10 か所で多数が確認された。 主な確認場所は、 [] であった。
トウゴクサバノオ		NT	施工前は事業区域周辺で確認された。評価書作成時の宮城県レッドリスト 2016 は未指定。	2021 年度調査時に、周辺区域の溪流沿いの樹林下の 1 か所で 1 個体確認された。
シラネアオイ		NT	施工前は事業区域内及び周辺で確認された。評価書作成時の宮城県レッドリスト 2016 は未指定	2021 年度調査時に、事業実施区域内の 4 か所でそれぞれ 1 個体～多数が確認された。2022 年度調査時では、事業実施区域内の 1 か所で 1 個体、周辺区域の 2 か所で多数が確認された。
ヤマシャクヤク	NT	VU	11 か所で、1 地点につき 1 個体から最大 8 個体が確認された。 []	2021 年度調査時に、事業実施区域内の 3 か所で 10～多数個体、周辺区域の 3 か所でそれぞれ 1 個体が確認された。2022 年度調査時は、周辺区域の 1 か所で 1 個体が確認された。 主な確認場所は、 [] であった。
エチゴキジムシロ		要	確認されていない。	2022 年度調査時に、周辺区域 [] の 1 か所で 2 個体が確認された。
シライヤナギ		VU	確認されていない。	2021 年度調査時に、事業実施区域の未変更区及び周辺区域の境付近の 1 か所で多数が確認された。2022 年度調査時は、2021 年度と同じ場所 1 か所で 2 個体が確認された。

表 3.5-6 (3) 植物保全すべき種確認状況

種名	カテゴリー		施工前の確認状況	施工中の確認状況
	国 RL	県 RL		
ヒメビシ	VU	CR+EN	調査区域 [] の 1 か所において 1 個体が確認された。	2021 年度調査時に、施工前と同じ場所の 1 か所において 5 個体が確認された。
ナニワズ		CR+EN	[] の 1 か所において 1 個体が確認された。	施工中調査では確認されていない。
ハタザオ		VU	施工前は事業区域内及び周辺で確認された。評価書作成時の宮城県レッドリスト 2016 は未指定。	2021 年度調査時に、周辺区域 [] の 1 か所で多数が確認された。2022 年度調査時は、2021 年度と同じ場所 1 か所で多数が確認された。
ナンブワチガイソウ	VU	NT	調査区域 [] の 1 か所において多数が確認された。	2021 年度調査時に、施工前と同じ場所の 1 か所において多数が確認された。
クリンソウ		VU	調査区域 [] の 2 か所で、それぞれ 1 個体・3 個体が確認された。	2021 年度調査時に、施工前と同じ場所の 2 か所においてそれぞれ 1 個体・3 個体が確認された。
ムラサキセンブリ	NT	CR+EN	評価書作成時は確認されなかったが、施工前に事業区域内で確認された。	2021 年度調査時に、事業実施区域内の 6 か所において 1~10 個体、周辺区域 4 か所で 1 個体ずつ確認がされた。2022 年度調査時では、事業実施区域内の 4 か所で 1~5 個体、周辺区域の 1 か所で 1 個体が確認された。 主な確認場所は、 [] であった。
ハダカホオズキ		NT	施工前は事業区域内及び周辺で確認された。評価書作成時の宮城県レッドリスト 2016 は未指定。	2021 年度調査時に、周辺区域 [] の 1 か所で 1 個体、2022 年度調査時に、周辺区域 [] の 2 か所で 1 個体ずつ確認がされた。
クワガタソウ		NT	調査区域 [] の 2 か所で、それぞれ 1 個体・3 個体が確認された。	2021 年度調査時に、施工前と同じ場所の 1 か所において多数が確認された。2022 年度調査時では、事業実施区域南部及び 2021 年度と同じ場所 1 か所においてそれぞれ 3 個体・5 個体が確認された。
ヤマジソ	NT	VU	事業実施区域 [] で広範囲に多数が確認された。	2021 年度及び 2022 年度調査時に、施工前と同じ場所 1 か所において多数が確認された。
ケヤマウツボ		要	調査区域 [] の 2 か所で、それぞれ 3~5 個体が確認された。	施工中調査では確認されていない。
キキョウ	VU	NT	確認されていない。	2021 年度調査時に、周辺区域の 1 か所で 3 個体が確認された。2022 年度調査時では、2021 年度と同じ場所 1 か所で 3 個体が確認された。
ムラサキニガナ		NT	確認されていない。	2021 年度調査時に、周辺区域の 1 か所で 1 個体が確認された。
コウヤボウキ		CR+EN	調査区域南部 [] の 7 か所で、各地点において数株ずつ確認された。	2022 年度調査時に、周辺区域 [] の 3 か所で 2~10 個体が確認された。
ハナビゼリ		NT	施工前は事業区域内で確認された。評価書作成時の宮城県レッドリスト 2016 は未指定。	2021 年度調査時に、周辺区域の 1 か所で 3 個体が確認された。2022 年度調査時では、2021 年度と同じ場所の 1 か所及び周辺区域の 2 か所において 1~4 個体が確認された。

重要な種保護の観点から、重要な動物・植物の確認位置は
非掲載とさせていただきます。

**重要な種保護の観点から、重要な動物・植物の確認位置は
非掲載とさせていただきます。**

重要な種保護の観点から、重要な動物・植物の確認位置は
非掲載とさせていただきます。

重要な種保護の観点から、重要な動物・植物の確認位置は
非掲載とさせていただきます。

6) 予測・評価結果の検証

(1) 重要な種への影響

評価書において、事業の実施による影響としては、土地の改変及び造成地の存在により個体及び生育環境が消失することが考えられるとした。

工事の実施により、樹林地を主体に生育環境は減少し、それに伴い事業実施区域内の種数も減少している。しかし、造成箇所以外の生育環境は施工中も保たれており、周辺区域を含む全体の種数は施工前と施工中で大きな変化はない。

非改変範囲に確認された種の多くは引き続き確認されていることから、工事による影響は無いと考えられる。

なお、改変範囲で確認された重要な種は適宜移植を行っており、移植個体は概ね活着し、生育が確認されている。

保全すべき種ごとの予測結果と施工中調査結果の比較を表 3.5-7 に示す。

表 3.5-7 (1) 予測結果との比較

種名	施工前 確認地点	施工時 確認地点	予測結果	施工中の調査結果との比較
イチョウウ キゴケ	非改変範囲	非改変範囲	非改変範囲のみの確認であり、直接的影響はないと予測する。しかし、事業実施区域からの排水経路や改変区域に近く、確認箇所数は少ないため、土砂流出等が発生した場合影響が生じる。	施工中も施工前と同じ場所で確認されていることから、工事による影響はないと考えられ、予測どおりである。しかし、2022 年度に生育地の浅水域に土砂流出が確認されたため、引き続き生育状況を確認する。
チョウセン ゴミシ	非改変範囲	確認無し	非改変範囲のみの確認であり、影響はないと予測する。	施工中調査では確認されていないが、施工前は非改変範囲の確認であるため、工事による影響は不明である。
イトトリゲ モ	非改変範囲	非改変範囲	非改変区域のみの確認であり、直接的影響はないと予測する。しかし、事業実施区域からの排水経路や改変範囲に近く、確認箇所数は少ないため、土砂流出等が発生した場合影響が生じる。	施工中も引き続き確認されていることから、工事による影響はないと考えられ、予測どおりである。しかし、2022 年度に生育地の浅水域に土砂流出が確認されたため、引き続き生育状況を確認する。
イトモ	周辺区域	確認無し	周辺区域のみの確認であり、影響はないと予測する。	施工中調査では確認されていないが、施工前は周辺区域の確認であり、工事による影響は不明である。
エビネ	改変範囲 非改変範囲 周辺区域	改変範囲 非改変範囲 周辺区域	周辺区域や非改変範囲でも確認されているが、改変範囲を主体に広く分布しており改変による影響を受けると予測する。	周辺区域や非改変範囲でも確認されている。改変範囲で確認された個体については改変前及び確認されるたびに移植を行い、概ね活着・生育していることから、工事による影響を代償ができていと考えられる。
キンラン	非改変範囲 周辺区域	確認無し	非改変範囲と周辺区域のみの確認であり、影響はないと予測する。	施工中調査では確認されていないが、施工前は非改変範囲及び周辺区域のみの確認であるため、工事による影響は不明である。
ユウシュン ラン	周辺区域	確認無し	周辺区域のみの確認であり、影響はないと予測する。	施工中調査では確認されていないが、施工前は周辺区域の確認であり、工事による影響は不明である。

表 3.5-7 (2) 予測結果との比較

種名	施工前 確認地点	施工時 確認地点	予測結果	施工中の調査結果との比較
クマガイソウ	周辺区域	周辺区域	周辺区域のみの確認であり、影響はないと予測する。	施工中も施工前と同じ場所及び新規地点で確認されていることから、工事による影響はないと考えられ、予測どおりである。
ツレサギソウ	非改変範囲 周辺区域	非改変範囲	非改変範囲と周辺区域のみの確認であり、影響はないと予測する。	施工中も施工前と同じ場所で確認されていることから、工事による影響はないと考えられ、予測どおりである。
アヤメ	改変範囲 非改変範囲 周辺区域	改変範囲 非改変範囲 周辺区域	周辺区域や非改変範囲でも確認されているが、事業実施区域北部の改変範囲を主体に広く分布しており改変による影響を受けると予測する。	周辺区域や非改変範囲でも確認されている。改変範囲で確認された個体については改変前及び確認されるたびに移植を行い、概ね活着・生育していることから、工事による影響を代償ができていと考えられる。
スズラン	周辺区域	周辺区域	周辺区域のみの確認であり、影響はないと予測する。	施工中も施工前と同じ場所で確認されていることから、工事による影響はないと考えられ、予測どおりである。
センウズモドキ	改変範囲 非改変範囲 周辺区域	改変範囲 非改変範囲 周辺区域	改変範囲 2 か所に分布しており、改変による影響を受けると予測する。周辺区域や非改変区域でも確認されており多くが保全されるが、全体の確認数は少ない。	周辺区域や非改変範囲でも確認されている。改変範囲で確認された個体については改変前及び確認されるたびに移植を行い、概ね活着・生育していることから、工事による影響を代償ができていと考えられる。
ヤマシャクヤク	改変範囲 非改変範囲 周辺区域	改変範囲 非改変範囲 周辺区域	周辺区域や非改変範囲でも確認されているが、事業実施区域北部の改変範囲を主体に広く分布しており改変による影響を受けると予測する。	周辺区域や非改変範囲でも確認されている。改変範囲で確認された個体については改変前及び確認されるたびに移植を行い、概ね活着・生育していることから、工事による影響を代償ができていと考えられる。
ヒメビシ	非改変範囲	非改変範囲	非改変範囲のみの確認であり、直接的影響はないと予測する。しかし、事業実施区域からの排水経路や改変区域に近く、確認箇所数は少ないため、土砂流出等が発生した場合影響が生じる。	施工中も施工前と同じ場所で確認されていることから、工事による影響はないと考えられ、予測どおりである。しかし、2022 年度に生育地の浅水域に土砂流出が確認されたため、引き続き生育状況を確認する。
ナニワズ	周辺区域	確認無し	周辺区域のみの確認であり、影響はないと予測する。	施工中調査では確認されていないが、施工前は周辺区域の確認であり、工事による影響は不明である。
ナンブワチガイソウ	周辺区域	確認無し	周辺区域のみの確認であり、直接的影響はないと予測する。しかし、事業実施区域からの排水経路に近く、確認箇所数は少ないため、土砂流出等が発生した場合影響が生じる。	施工中も施工前と同じ場所で確認されていることから、工事による影響はないと考えられ、予測どおりである。
クリンソウ	非改変範囲 周辺区域	周辺区域	非改変範囲と周辺区域のみの確認であり、直接的影響はないと予測する。しかし、1 か所事業実施区域からの排水経路に近く、確認箇所数は少ないため、土砂流出等が発生した場合影響が生じる。	施工中も施工前と同じ場所で確認されていることから、工事による影響はないと考えられ、予測どおりである。

表 3.5-7 (3) 予測結果との比較

種名	施工前 確認地点	施工時 確認地点	予測結果	施工中の調査結果との比較
クワガタソ ウ	周辺区域	非改変範囲 周辺区域	周辺区域のみの確認であり、影響はないと予測する。	施工中も施工前と同じ場所及び新規地点で確認されていることから、工事による影響はないと考えられ、予測どおりである。
ヤマジソ	非改変範囲	非改変範囲	非改変範囲のみの確認であり、影響はないと予測する。	施工中も施工前と同じ場所で確認されていることから、工事による影響はないと考えられ、予測どおりである。
ケヤマウツ ボ	改変範囲 周辺区域	確認無し	周辺区域でも確認されているが、元々の確認数が少なく改変による影響を受けると予測する。	施工中調査では確認されていない。元々確認数が少なく、施工前に確認できず移植できなかった種である。工事による影響は不明である。
コウヤボウ キ	非改変範囲 周辺区域	非改変範囲	非改変範囲と周辺区域のみの確認であり、直接的影響はないと予測する。しかし、改変範囲近くで確認されている個体もあり、踏み荒らし等があった場合影響が生じる。	施工中調査では施工前と別の新規地点で確認されている。施工中も引き続き確認されていることから工事による影響はないと考えられる。